

歯科衛生学教育コア・カリキュラム
—教育内容ガイドライン—
改訂版

全国歯科衛生士教育協議会作成

2015年3月25日発行

「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」改訂版

1. 「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」改訂版作成の背景と考え方

国民はより良質な医療が提供されることを強く求めている。平成 26 年 6 月 25 日に公布された「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」(平成 26 年法律第 83 号)により、医療職の確保と相互連携が重要視され、平成 27 年 4 月 1 日から施行される歯科衛生士法改正とともに、保健・医療・福祉の分野は大きな変革期を迎えている。

歯科保健医療に関する国民のニーズが多様化し拡大する中で、良質な歯科保健医療サービスを提供していくためには、歯科衛生士数を充足し、資質の向上を図ることがきわめて重要である。そのためには、歯科衛生士養成校における歯科衛生学教育の質を一層高め、一定水準の質を担保すると同時に教育内容を再編成して多様化を図る必要がある。従来、教育内容は、各養成校や担当教員の裁量に委ねられていた。また、歯科大学における講座単位の授業区分や教養教育、国家試験出題基準の区分に縛られて、その見直しが充分行われにくい状況も見受けられる。平成 16 年 9 月に改正された歯科衛生士学校養成所指定規則は大綱化されており、具体的なカリキュラム作成にあたっての指標となる歯科衛生学教育の内容をガイドラインとして提示してほしいとの会員校からの要望もあった。これらを背景として、歯科衛生士教育全体の視点からこれまでの教育内容を見直し、歯科医療技術の進歩と時代の要請にあわせて再編成するために、まず、すべての歯科衛生士学生が履修するべき必須の学習内容を精選する必要がある。また、社会から求められている患者とのコミュニケーションや安全性の確保などの学習内容を付加することも急務である。さらに、知識を詰め込むことを中心に行われてきたこれまでの教育方法から、生涯にわたり自ら課題を探求し、問題を解決していく能力を身につけられるような学生主体の学習方法に積極的に転換することも必要である。

コア・カリキュラムとは米国のハーバード大学において 4 年間の教養人養成カリキュラムを多様な学問分野「文学と芸術、科学、歴史研究、社会分析、外国文化、道徳理論」に種分けし、これらを基本のコアとし、専攻分野を除く各コアをいたしたバランスの良い履修をすることにより、各コアでの学問の方法を身につけることを目標にしたことから始まる。以後、米国では種々な分野の教育プログラムにコア・カリキュラムという用語を用いるようになった。現在では、ある教育目標を達成するための中心（コア）となる教育項目とその内容（カリキュラム）を示し、科目というよりは、定められた期間内に何をどこまで学ぶかという教育目標を示すことである。そして、各教育機関は、この目標を達成するために適当な科目を設定し、最適な順番でカリキュラムを展開する。

医学教育、歯学教育および薬学教育では、全国的基準で医療の質を保証すること、国際的に通用することを意識して、モデル・コア・カリキュラムを作成して、6 年間

での実践的臨床能力育成の目標を明確にしている。医師、歯科医師および薬剤師とともに歯科衛生士を含む種々の医療技術専門職も国民の医療を担うからには、医療技術専門職養成教育それぞれにモデル・コア・カリキュラムが必要であると考える。その一環として、歯科衛生士教育においても歯科衛生に対する社会のニーズの変化に対応して、すべての歯科衛生士学生が履修すべき必要不可欠な教育内容すなわちコアとなる歯科衛生学教育の内容をガイドラインとして提示することが望ましい。

そこで、有能な歯科衛生士を養成するために必要な教育上の諸問題について研究、協議を行うと共に、教員指導者の資質向上をはかり、歯科衛生士教育の充実発展に寄与することが目的である全国歯科衛生士教育協議会では、歯科衛生学教育コア・カリキュラムの作成を検討した。なお、全国歯科衛生士教育協議会は、平成22年3月に「ベーシック・モデル・カリキュラム」を作成している。現行の指定規則では4つの分野の大項目ごとの単位数の表記のみで、具体的な教育内容とその時間数については各学校施設が考えることになっている。平成22年4月から全養成校の修業年限が3年以上になるにあたり、養成校の現場からはモデルとなるカリキュラム案を示して欲しいとの要望が相次いだことから、最新歯科衛生士教本（医歯薬出版）の目次の網羅型として作成したものが「ベーシック・モデル・カリキュラム」であり、コア・カリキュラムの概念に沿ったものではなかった。

コア・カリキュラムを作成するにあたっては、他の分野の教育と区別する固有の特性は何かを考えねばならない。その核となるものを明確化し、しっかりと保持しなければならない。歯科衛生士教育も例外ではない。まず、歯科衛生士を医療職と位置付ける。医療系コア・カリキュラムを参考とする場合、医療職として普遍的なものとその職種に固有の特性とを区別し、固有の特性の部分を置換すればよいと考えた。医療職として普遍的なものは、人間教育として普遍的なものも含まれる。まず、他の医療職教育と区別する固有の特性とは、口腔保健に関する専門知識と技能および歯科医学的知識と技能である。しかし、口腔保健に関する専門知識と技能は、歯科医学教育と区別する固有の特性ではない。歯科医学教育との関係は、歯科医学教育の一部に相当する口腔保健に関する専門技能を深めたものおよび歯科医療に関する知識の大略と技能の一部と解釈した。歯科医学教育では口腔保健はほんの一部であり、捉え方も大まかで粗い。大所高所に立った捉え方である。しかし、国民側からは実際に運用してもらわなければ何もならないわけである。きめ細かな技能を修得するという意味において歯科医学教育と区別する固有の特性があると考える。また、歯科医学教育と区別する固有の特性として介護や看護の知識と技能が挙げられる。

以上の考えのもとに平成24年3月27日に全国歯科衛生士教育協議会は「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン」を作成した。しかし、作成後すでに3年が経過し、その間に各養成機関から多数の意見と追加案を頂戴している。今回、全国の加盟校から頂いた貴重な意見をもとに議論を重ねてようやく改訂の運びとなつた。基礎分野においては内容をより厳選し、専門基礎分野においては全身の知識を口腔について理解するためのものと位置づけて項目の精選および集約を行なつた。

専門分野においては歯科衛生士概論を歯科衛生学総論（歯科衛生士概論）に変更し、臨床歯科医学のすべての項目の一般目標の文頭に「歯科衛生業務を行うために」と追加した。また、新規に「全身管理と周術期の口腔保健管理」を追加するなど、歯科衛生学の確立と歯科衛生業務の拡大を意識した内容になっている。

歯科衛生士養成機関は2014年4月現在、155校中4年制大学は8校、3年制短期大学は12校しかなく、87%が専修学校であり、歯科衛生学という学問分野も確立されているとはいえないのが現状である。それゆえ、今回、全国歯科衛生士教育協議会が改訂した歯科衛生学教育コア・カリキュラムには、内容的にまだ未熟な部分が存在することは否めないので、今後とも教育課程の進展に応じて充実したものを確立していく必要がある。

2. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムの基本理念

生命科学や科学技術を基盤とした医学・歯学の進歩により、歯科衛生学の情報量は著しく増加し、医療分野の専門化と技術の高度化が進んでいる。しかしながら、現行の限られた教育課程の中で、このような膨大な知識や技術等を完全に修得することは不可能である。歯科衛生学教育コア・カリキュラムは、著しく膨大化した歯科衛生学教育の内容を精選し、歯科衛生士としての基本的な資質と能力を養成するために、卒業までに学生が身に付けておくべき必須の実践能力（知識・技能・態度）の到達目標をわかりやすく提示したものである。したがって、3年または4年の教育課程のすべて（100%）をコア・カリキュラムの履修にあてる 것을理想とするものではない。このコア・カリキュラムに示された内容を確実に修得した上で、残りの時間は各学校独自の個性的な学習プログラムを準備することが望まれる。

3. 臨地実習について

学校（養成所）において学習した歯科衛生士業務を医療や保健の実践と結びつけながら理解を深め実践能力を養うために、歯科臨床と地域歯科保健活動の場を通して歯科衛生士として必要な知識・技能・態度を身につけることを目的とした実践的な教育段階が臨地実習である。この臨地実習は臨床実習と臨地実習に分類される。臨床実習は病院や診療所など歯科医療の場を通して、また、臨地実習は保健所や学校、施設などの地域保健活動の場を経験することによって、歯科衛生士として必要な知識・技能・態度を身につけることを目指している。

さらに、臨床実習・臨地実習は、医療・保健環境のみならず直接患者や住民と接することにより、患者の全人的理解や医療の倫理感を培うことにもなる重要な教育的役割をもっている。

4. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムの表示方法

コア・カリキュラムは、カリキュラムの原則に基づいて、歯科衛生士になるために入学してきた学生への学習目標の提示である。能力を培うことが重要であり、知識と

理解の獲得はそのための手段である。また、学生の視点に立った学習の系統性や順次性が大切である。基本的な知識と理解は「何かを説明できる」という形で記述し、基本的な能力は「何かを行うことができる」という形で記述する。学生がわかることばを使い、そして目標を「学生を主語として」表現する。この目標が明確になると、これに到達するための授業が設計される。どのような教員が、どのように関わるかは、授業設計の内容となる。また、目標が明示されると評価方法も決められる。したがって、コア・カリキュラムでは、学習項目をあげて、学習のための「一般目標」と「到達目標」を記載した。

1) 一般目標

一般目標は、その項目における学習目標を包括的な概念的な言葉で表す。学生が「・・・を理解する。・・・を習得する。・・・を学ぶ。・・・を身につける」というような表現とした。

2) 到達目標

到達目標は、一般目標に記載された項目について、学習者が具体的にどの程度のレベルまで修得しなければならないか、卒業時までの学習の結果、何をどこまで修得するのかを表した。到達目標には、知識、技能および態度の領域にわけられ、それぞれ固有の言葉で表現する。これはすべて客観的に評価できる観察可能な表現とし、表現ができるだけ単純にした。たとえば、知識では、「・・・を説明できる」を用いるが、そこまで求めないものは「・・・を概説できる」とした。また、技能については、「・・・を実施できる」は、文字どおりある行為などを実施できるレベルを要求し、「・・・を説明できる」となっている行為などは、実施できなくても、内容を理解しているレベルでよいとなる。歯科医師でなければできない行為などは「・・・を説明できる」とした。

また、実習が望ましい項目には、「*」をつけた。

5. 歯科衛生士に求められる基本的な資質

カリキュラムの作成にあたっては、各学校で目標とする歯科衛生士像を考えた上で行っていると思うが、ここに、全国歯科衛生士教育協議会の歯科衛生学教育コア・カリキュラムの作成にあたって、各委員から挙げられた「歯科衛生士に求められる基本的な資質」を掲載する。

- 歯科医療の高度化と社会環境の変化に対応することのできる歯科衛生士
- 幅広い見識と豊かな人間性を有する歯科衛生士
- 高い倫理観を持つ歯科衛生士
- 資質向上に寄与することのできる歯科衛生士
- 他職種連携のできる歯科衛生士

○EBMに基づいた科学的な判断のできる歯科衛生士

さらに、コア・カリキュラムには収載できなかったが、3年または4年間学習してきた歯科衛生学の成果を集大成する意味で、講義や演習・実習で学んだことをもとに自分自身で研究テーマを設定し、研究を進め、一定の形式で論文にまとめて発表する「卒業研究」は歯科衛生学教育の一環として考慮する価値がある。自分自身の知識や経験が整理され、視野の広がりは臨床上の疑問を解くための指針ともなり自分が実践してきた歯科保健・医療の正当性を論述する方法を身につけることにもなる。日常の身近な問題を見つけ、自分で解決する能力を養う「研究」は歯科衛生士のみならず医療職にとってのアイデンティティでもある。

基礎分野

歯科衛生学教育コア・カリキュラムにおける基礎分野は、専門基礎分野と専門分野を理解するために身につけておくべき基本的な事項を、カリキュラム作成の参考となる教育内容ガイドラインとして提示したものである。項目立てや記載内容は、授業科目名を意味するものではなく、履修の順序を示すものでもない。具体的な授業科目などの設定、教育手法や履修順序などは、各歯科衛生士養成校が独自の理念や特色に基づいて設定することが望ましい。

A. 科学的思考の基盤

1. 生命現象の科学

一般目標：生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 細胞の構造と機能

- ① 細胞の基本的構造と機能を概説できる。
- ② 原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。
- ③ 細胞分裂と細胞周期を概説できる。

2) 細胞代謝

- ① 酵素の構造、機能および代謝調節を説明できる。
- ② 細胞呼吸とエネルギー産生を説明できる。

3) 遺伝子と遺伝

- ① 遺伝子と染色体の構造を説明できる。
- ② 減数分裂における染色体の挙動を説明できる。
- ③ DNAの複製と修復の機序を説明できる。
- ④ 転写と翻訳の過程を説明できる。
- ⑤ 遺伝子型と表現型の関係を説明できる。
- ⑥ 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。

4) 化学反応と化合物

- ① 化学反応を概説できる。
- ② 有機化合物の特徴を説明できる。
- ③ 無機化合物の特徴を説明できる。

5) 生命を構成する物質

- ① 糖質の基本的な構造と機能を説明できる。
- ② 炭水化物の基本的な構造と機能を説明できる。
- ③ 脂質の基本的な構造と機能を説明できる。
- ④ アミノ酸とタンパク質の基本的な構造と機能を説明できる。
- ⑤ 核酸の構造と機能を説明できる。

B. 人間と生活

1. 生命倫理・医療倫理

一般目標：倫理問題に配慮して医療、歯科医療を行うために、生命と医療に関わる倫理の重要性を理解する。

到達目標

- ① 生命の尊厳について説明できる。
- ② 生と死に関わる倫理的問題を説明できる。
- ③ 生命倫理・医療倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。
- ④ 医の倫理に関する規範を概説できる。

2. 外国語

一般目標：歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。

到達目標

1) 読む

- ① 易しい外国語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。
- ② 歯科衛生学に関連する外国語の専門用語のうち代表的なものを列挙できる。

2) 書く

- ① 短い日本文を文法にかなった外国語に直すことができる。
- ② 自己紹介文、手紙文などを外国語で書くことができる。
- ③ 自然科学各分野における基本的単位、数値、現象の外国語表現を列記できる。

3) 聞く・話す

- ① 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。
- ② 外国語による日常会話での質疑応答ができる。

3. 情報リテラシー

一般目標：情報の授受に効果的なコンピュータの利用法を理解し、必要なデータや情報を

有効活用できるようになるために、インターネットを利用した情報の収集、開示などに関する基本的知識、技能および態度を習得する。

到達目標

- ① コンピュータを構成する基本的装置を列記できる。
- ② ワープロソフト、表計算ソフトおよびグラフィックソフトを用いることができる。
- ③ ソフトウェア使用上のルールとマナーを述べることができる。
- ④ 電子メールの送信、受信および転送ができる。
- ⑤ インターネットのブラウザ検索ソフトを用いて、ホームページを閲覧できる。
- ⑥ ネットワークセキュリティーと使用上のマナーについて概説できる。

4. プレゼンテーション

一般目標：必要な情報、意思の伝達を行うことができ、集団の意見を整理して発表できるようになるために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。

到達目標

- ① 課題に対する自分の意見を決められた時間内と字数で発表できる。
- ② グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。
- ③ 質問に対して的確な応答ができる。
- ④ 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点と改良点を指摘できる。
- ⑤ 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。

5. 人の行動と心理

一般目標：良好な対人関係を構築するために、人の行動と心理に関する基本的な知識と考え方を習得する。

到達目標

- ① 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考および性格との関係を概説できる。
- ② 動機づけを例示できる。
- ③ 欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。
- ④ 人生や日常生活におけるストレッサーを例示できる。
- ⑤ こころの発達の原理を概説できる。
- ⑥ ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴を概説できる。
- ⑦ こころの発達にかかる遺伝的要因と環境的要因を概説できる。
- ⑧ 性格の類型を概説できる。
- ⑨ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる。
- ⑩ 文化・慣習によってコミュニケーションのあり方が異なることを挙げる。
- ⑪ 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切にコミュニケーションできる。
- ⑫ 対人関係にかかる心理的要因を概説できる。

専門基礎分野

A. 人体の構造と機能

B. 齒・口腔の構造と機能

1. 解剖・組織・生理

一般目標: 人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能、組織・発生に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 身体の部位と方向用語

- ① 身体の部位を解剖学的な名称で表現できる。
- ② 身体の方向用語を正確に用いることができる。

2) 細胞・組織

- ① 細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能を概説できる。
- ② 細胞の基本的生理機能を概説できる。
- ③ 組織の定義を説明し、分類できる。
- ④ 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類できる。
- ⑤ 外分泌腺と内分泌腺の相違を説明できる。
- ⑥ 皮膚と粘膜の構造・機能の相違を説明できる。
- ⑦ 支持組織の特徴を説明し、分類できる。
- ⑧ 結合組織の所在と構成を説明できる。
- ⑨ 筋組織の構造と機能を概説できる。
- ⑩ 神経組織の構造と機能を概説できる。

3) 人体の発生

- ① 遺伝子と遺伝情報について概説できる。
- ② 受精と着床の時期と場所を説明できる。
- ③ 胚葉の形成を概説できる。
- ④ 胎児の成長と発育を概説できる。

4) 器官と器官系の構造と機能

(1) 呼吸器系

- ① 呼吸器系の構造と機能を概説できる。
- ② 呼吸運動とガス交換について概説できる。
- ③ 呼吸の調節について概説できる。

(2) 循環器系と血液

- ① 動脈、静脈および毛細血管の構造と役割を説明できる。
- ② 肺循環と体循環を説明できる。
- ③ リンパの循環とリンパ節の機能を説明できる。
- ④ 心臓の構造と機能を概説できる（心筋の特徴、刺激伝導系を含む）。
- ⑤ 血圧と心電図について概説できる。
- ⑥ 血液の組成と機能を説明できる。
- ⑦ 血液型と輸血について概説できる。
- ⑧ 止血、凝固および線溶現象について概説できる。
- ⑨ 造血臓器を概説できる。

(3) 神経系

- ① 神経系の概略を説明できる（ニューロンについても含む）。
- ② 脳と脊髄の基本構造と機能を概説できる。
- ③ 末梢神経系の機能と分類を概説できる。
- ④ 興奮の伝導について概説できる（シナプスでの伝達を含む）。
- ⑤ 反射と随意運動について概説できる。

(4) 運動器系

- ① 骨の基本構造と連結様式を概説できる。
- ② 骨の改造現象について概説できる。
- ③ 筋の種類と特徴を説明できる。
- ④ 骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる。

(5) 感覚器系

- ① 感覚器について概説できる。

(6) 消化器系

- ① 消化器の基本構造と機能を概説できる（肝臓・脾臓を含む）。
- ② 胃における消化について概説できる。
- ③ 腸における消化と吸収を概説できる。

(7) 内分泌系

- ① 内分泌器の基本構造とホルモンについて概説できる。
- ② ホルモンの働きについて概説できる。

(8) 泌尿器系

- ① 泌尿器系について概説できる。

② 尿の生成と体液の調節について概説できる。

(9) 生殖器系

① 生殖器系について概説できる。

(10) 外皮系（皮膚とその付属器）

① 皮膚とその付属器について概説できる。

② 体温の発生と体温の調節について概説できる。

2. 歯・口腔の解剖・組織・生理

一般目標：顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 頭頸部の基本的な構造と機能

- ① 顔面ならびに口腔の範囲を説明できる。
- ② 顔面ならびに口腔の各部位の名称を正確に表現できる。
- ③ 顔面ならびに口腔の発生について概説できる。
- ④ 顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる。
- ⑤ 頭頸部の筋の構成と機能について概説できる（特に咀嚼筋）。
- ⑥ 頭頸部の脈管について概説できる。
- ⑦ 頭頸部の神経について概説できる。
- ⑧ 三叉神経と顔面神経の走行と線維構成を概説できる。
- ⑨ 顎関節の構造と機能を概説できる。
- ⑩ 下顎の運動について概説できる。
- ⑪ 咀嚼の意義を説明できる。
- ⑫ 摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。
- ⑬ 口腔粘膜の分類と特徴を部位ごとに説明できる。
- ⑭ 舌の構造と機能を説明できる。
- ⑮ 味覚器の構造と味覚について説明できる。
- ⑯ 唾液腺の位置と構造について説明できる。
- ⑰ 唾液の性状と役割を説明できる。
- ⑱ 吸啜と嘔吐について概説できる。
- ⑲ 構音器官としての口腔を概説できる。

2) 歯と歯周組織の構造と機能

- ① 歯と歯周組織の発生を概説できる。
- ② 歯の萌出と交換について概説できる。

- ③ 歯種別の形態と特徴を説明できる（歯式を含む）。
- ④ 永久歯と比較した乳歯の特徴が説明できる。
- ⑤ 歯の硬組織の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑥ 歯髄の組織学的構造と機能を説明できる（象牙質・歯髄複合体を含む）。
- ⑦ 歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。
- ⑧ 歯列と咬合について概説できる。
- ⑨ 歯と口腔粘膜の感覚について概説できる。

3. 栄養と代謝

一般目標：生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体の活動に必要な栄養素の摂取と働きから、健康の維持と増進を考える態度を養うために、栄養と代謝に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 生体の構成要素

- ① 生体の反応に必要な水の働きを説明できる。
- ② 生体構成成分と栄養素について説明できる。

2) 生体における化学反応

- ① 消化管で起こる栄養素の消化と吸収について説明できる。
- ② 酸素の運搬と二酸化炭素の排出について説明できる。
- ③ 細胞内で起こる代謝（エネルギー代謝、分解、合成）について説明できる。

3) 糖質と脂質の代謝—主要なエネルギー基質—

- ① エネルギー代謝の全体像を説明できる。
- ② 主要なエネルギー基質である糖質の代謝を説明できる。
- ③ 主要なエネルギー基質である脂質の代謝を説明できる。

4) タンパク質とアミノ酸の代謝—多様な機能をもつ生体分子—

- ① タンパク質とアミノ酸の代謝を説明できる。
- ② アミノ酸を材料としてタンパク質が合成される過程を説明できる。

5) 生体における恒常性の維持

- ① 体内的内部環境が安定に維持される恒常性（ホメオスタシス）を、血液のpHと血糖値の調節を例として概説できる。
- ② 恒常性を保つ仕組みとして、ホルモン系と自律神経系があることを概説できる。

6) 歯と歯周組織の生化学

- ① 細胞外マトリックス成分を説明できる。
- ② 線維状タンパク質（コラーゲン、エラスチン）の構造と機能を説明できる。
- ③ コラーゲンの生合成と線維形成の機構を説明できる。
- ④ 線維間マトリックス物質を説明できる。
- ⑤ 細胞外マトリックス成分の分解を説明できる。
- ⑥ 歯の無機成分を説明できる。
- ⑦ ヒドロキシアパタイトなど、リン酸カルシウム化合物の性質を説明できる。
- ⑧ 歯の有機成分を説明できる。

7) 硬組織の生化学

- ① 血清中のカルシウムとリン酸濃度を説明できる。
- ② 歯と骨の石灰化の仕組みを概説できる。
- ③ 石灰化における基質小胞とコラーゲンの役割を説明できる。
- ④ 血清カルシウム調節に関する3つのホルモンを説明できる。
- ⑤ 副甲状腺ホルモン（PTH）の働きを説明できる。
- ⑥ カルシトニンの働きを説明できる。
- ⑦ ビタミンDの活性化とその働きを説明できる。
- ⑧ 歯の脱灰と再石灰化を説明できる。

8) 唾液の生化学

- ① 唾液中の無機質と有機質の種類を列挙できる。
- ② 唾液中の無機質の作用を説明できる。
- ③ 唾液中の有機質の作用を説明できる。

9) プラークの生化学

- ① う蝕におけるプラークの関わりを説明できる。
- ② 歯周疾患におけるプラークの関わりを説明できる。
- ③ 歯周疾患と生体防御反応の関わりを説明できる。

10) 栄養の基礎知識

- ① 健康の維持と増進のために必要とされる、栄養の概略が説明できる。
- ② 現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を列挙できる。
- ③ 栄養素の消化と吸収の基本を説明できる。
- ④ 栄養素の相互作用、相互の影響について健康との関係で述べることができる。

11) 食事摂取基準

- ① 食事摂取基準とは何かを説明できる。

- ② 個人の推定エネルギー必要量の求め方と摂取量の評価方法が説明できる。
- ③ 脂肪エネルギー比率を概説できる。
- ④ 付加運動による消費エネルギーの増加が求められる理由を説明できる。

12) 栄養素の働き

- ① 食品から摂取している糖質、タンパク質および脂質について、それぞれの生体での役割を概説できる。
- ② ビタミンの種類と個々の働きについて概説できる。
- ③ ミネラル（無機質）の種類と個々の働きについて概説できる。

13) 食生活と健康

- ① 食生活と健康との関連についてマクロ的な視点で把握し、健康の維持と増進をはかるための栄養指導の必要性について概説できる。
- ② 健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて、歯科衛生士として果たすべき役割を概説できる。
- ③ 成長期、成人期および高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を把握できる。

14) 食べ物と健康

- ① 食品の3つの機能性（栄養、嗜好・感覚、生体調節）について概説できる。
- ② 健康づくりのための食事計画を立案できる。
- ③ 食品の特性をおいしさ要因、物性・テクスチャーなどから概説できる。

C. 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進

1. 病因と病態（病理学分野）

一般目標：口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾患の概念、病因と病態に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 細胞組織の障害（退行性病変）

- ① 細胞・組織の変性、萎縮、壊死について概説できる。
- ② ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。

2) 増殖と修復（進行性病変）

- ① 肥大、増生、化生、再生について概説できる。
- ② 肉芽組織とその構成成分について説明できる。
- ③ 肉芽組織が関与する病変を列挙できる。
- ④ 異物の処理について説明できる（器質化を含む）。
- ⑤ 創傷の治癒過程を説明できる。

3) 循環障害

- ① 虚血、充血、うつ血の相違を説明できる。
- ② 出血の原因、種類、転帰を説明できる。
- ③ 血栓、塞栓の形成機序、転帰を概説できる。
- ④ 梗塞の成因、転帰を概説できる。
- ⑤ 水腫（浮腫）の原因、症状、転帰を説明できる。
- ⑥ 一次性ショックと二次性ショックの相違を説明できる。

4) 炎症

- ① 炎症の定義を説明できる。
- ② 炎症に関する細胞の種類と機能を説明できる。
- ③ 炎症を分類できる。
- ④ 渗出性炎とその経時的変化を概説できる。
- ⑤ 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違を説明できる。
- ⑥ 肉芽腫性炎の定義が言え、代表的な肉芽腫性炎を列挙できる。

5) 免疫異常と移植

✧ 微生物（感染と免疫）

- ① 免疫異常について概説できる。
- ② 移植免疫について概説できる。

6) 腫瘍

- ① 腫瘍の定義を説明できる。
- ② 腫瘍の病因と進展を概説できる。
- ③ 腫瘍の局所での発育、浸潤、転移について概説できる。
- ④ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを概説できる。
- ⑤ 腫瘍を分類できる。
- ⑥ 前癌病変について概説できる。

7) 口腔領域の疾患

- ① 歯の発育障害について種類と病態を概説できる。
- ② 歯の損傷について概説できる。
- ③ プラーク、歯石の形成とその為害性について説明できる。
- ④ う蝕の病因と病態を説明できる。
- ⑤ う蝕を組織学的に分類し、その特徴を説明できる。
- ⑥ 酸蝕症の病因や病態を説明できる。
- ⑦ 歯頸部知覚過敏症の病因や病態を説明できる。
- ⑧ 歯髓疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑨ 歯髓炎を分類し、その特徴を説明できる。

- ⑩ 根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑪ 根尖性歯周炎を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑫ 歯周疾患の病因と病態を説明できる。
- ⑬ 歯周疾患を分類し、その特徴を説明できる。
- ⑭ 拔歯創の治癒過程について説明できる。
- ⑮ 口腔粘膜疾患の種類と特徴を概説できる。
- ⑯ 口腔領域の囊胞について概説できる（歯原性囊胞を含む）。
- ⑰ 口腔領域の腫瘍について概説できる（歯原性腫瘍を含む）。
- ⑱ 唾液腺疾患について概説できる。

2. 感染と免疫（微生物学分野）

一般目標：口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 感染

- ① 感染と発症について説明できる。
- ② 微生物の感染機構と病原性について概説できる。
- ③ 宿主の抵抗性について概説できる。
- ④ 感染の種類と経路をあげ、概説できる。
- ⑤ 細菌、ウイルスその他微生物の形態学的特徴と基本的性状を概説できる（プリオンを含む）。
- ⑥ 減菌・消毒の意義と原理を説明できる。
- ⑦ 院内感染について原因と予防法を説明できる。
- ⑧ 化学療法の目的と原理を説明できる。
- ⑨ 微生物の培養と観察法を概説できる。

2) 免疫

- ① 自然免疫と獲得免疫について説明できる。
- ② 液性免疫と細胞性免疫について説明できる。
- ③ 免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。
- ④ 抗原、抗体およびサイトカインについて説明できる。
- ⑤ 免疫反応を利用した検査法を概説できる。
- ⑥ ワクチンとは何か説明できる。
- ⑦ アレルギーについて概説できる。

3) 口腔微生物

- ① 微生物と口腔環境の関わりを説明できる。
- ② 口腔常在微生物について概説できる。
- ③ デンタルプラーク（バイオフィルムとして）の形成とその微生物叢について概説できる。
- ④ バイオフィルム感染症について概説できる。
- ⑤ う蝕原因菌について概説できる。
- ⑥ 歯周病原因菌について概説できる。
- ⑦ 微生物が原因で口腔に症状を現す疾患を概説できる。

3. 疾病の回復を促進する薬（薬理学分野）

一般目標：薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 医療と薬物

- ① 薬物療法（原因療法、対症療法）を説明できる。
- ② 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。

2) 身体と薬物

- ① 薬物の作用機序を説明できる。
- ② 薬物の適用方法の種類とその特徴を説明できる。
- ③ 薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。
- ④ 薬理作用を規定する要因（用量、作用、感受性）を説明できる。
- ⑤ 薬物の併用（協力作用、拮抗作用、相互作用）を説明できる。
- ⑥ 薬物の連用の影響（薬物耐性、蓄積および薬物依存）を説明できる。
- ⑦ 薬物の一般的な副作用、有害作用と口唇・口腔・顎顔面領域に現れる副作用、有害作用を説明できる。

3) 医薬品の分類

- ① 医薬品の分類を説明できる。
- ② 毒薬、劇薬および麻薬などの表示と保管を説明できる。
- ③ 日本薬局方を説明できる。

4) 薬物の取り扱い

- ① 処方箋の記載事項を概説できる。
- ② 薬物の配合変化を説明できる。
- ③ 薬物の保存方法を説明できる。

5) 中枢神経系と薬

- ① 主な中枢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

6) 末梢神経系と薬

- ① 主な末梢神経作用薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
② 主な局所麻酔薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

7) 循環・呼吸系と薬

- ① 循環器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
② 呼吸器系に作用する主な薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

8) 血液と薬

- ① 血液凝固の過程を概説できる。
② 主な止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

9) 炎症と薬

- ① 炎症のメカニズムを概説できる。
② 主な抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消炎酵素薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

10) 感染症と薬

- ① 感染症を概説できる。
② 主な抗感染症薬と消毒薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

11) 歯・歯髄疾患と薬

- ① う蝕の予防に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
② 歯・歯髄疾患に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。

12) 歯周疾患と薬

- ① 歯周治療に用いる薬の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。
② 洗口薬について説明できる。

13) 服薬指導

- ① 服薬に関する一般的な事項を説明できる。
② 対象者別の服薬指導について説明できる。

D. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

1. 健康を左右する環境（保健生態学：衛生学）

一般目標：健康を左右する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 総論

- ① 健康の定義と国民の権利について説明できる。
- ② プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを概説できる。
- ③ 第一次予防、第二次予防および第三次予防について説明できる。

2) 疫学

- ① 疫学の定義を説明できる。
- ② 疾病や異常の発生要因（因子）を列挙できる。
- ③ 多要因疾病発生論を説明できる。
- ④ 疾病の発生や流行状態を表す指標を列挙できる。
- ⑤ 疫学研究の方法を説明できる。
- ⑥ 疫学研究における倫理的配慮の必要性を説明できる。

3) 人口

- ① わが国と世界における人口の現状と推移の概要を説明できる。
- ② 人口統計における静態統計と動態統計について説明できる。
- ③ 人口構造の表し方として、人口ピラミッドや各種指標について説明できる。
- ④ 人口の高齢化について概説できる。
- ⑤ 生命表の概要を理解して、日本人の平均寿命の動向について説明できる。

4) 健康と環境

- ① 環境の重要性が理解できる。
- ② 人間と環境の関係を説明できる。
- ③ 健康と環境の関係を説明できる。
- ④ 地球規模で発生している環境破壊への対応を説明できる。
- ⑤ 公害問題とその原因物質を列挙できる。
- ⑥ 廃棄物を減量するための方法を列挙できる。

5) 感染症

- ① 感染症の概念と感染成立の三要因について説明できる。
- ② 感染予防・流行防止の基本的考え方と対策について説明できる。

- ③ 感染症対策上の問題点について説明できる。
- ④ 感染症の分類とその内容について説明できる。
- ⑤ 主な感染症とその動向について説明できる。

6) 食品と健康

- ① わが国の食中毒の発生状況を説明できる。
- ② 食中毒の分類と特徴を説明できる。
- ③ 食品の安全性確保の方策を列挙できる。
- ④ 日本人の食事摂取基準について、その基本的概念を説明できる。
- ⑤ わが国の食生活の現状と問題点について説明できる。
- ⑥ 健康づくりのための食生活指針や食育の推進について説明できる。

2. 歯・口腔の健康と予防（保健生態学：口腔衛生学）

一般目標：歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 総論

- ① 口腔の健康の定義を説明できる。
- ② 歯・口腔の健康を保持・増進する手段について概説できる。
- ③ 唾液腺の種類および唾液の働きについて説明できる。
- ④ 歯・口腔の形成および発育・発達について説明できる。
- ⑤ 歯・口腔の形成異常にについて説明できる。
- ⑥ 歯・口腔の機能について説明できる。
- ⑦ 口腔と全身の健康の関係について説明できる。
- ⑧ 歯・口腔の付着物と沈着物を説明できる。

2) 口腔清掃

- ① 口腔清掃の意義を説明できる。
- ② 口腔清掃法の種類を列挙できる。
- ③ 人工的清掃法の分類と用具を列挙できる。
- ④ 不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を列挙できる。
- ⑤ 歯磨剤と洗口剤の種類を列挙できる。
- ⑥ 歯磨剤と洗口剤の組成について説明できる。

3) 歯科疾患の疫学

- ① う蝕の疫学的特性を概説できる。
- ② 歯周疾患の疫学的特性を概説できる。

③ その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。

4) う蝕の予防

- ① う蝕発病のメカニズムについて説明できる。
- ② う蝕の発病要因（宿主、口腔細菌叢、食事性基質）について説明できる。
- ③ う蝕活動性試験の意義を説明できる。
- ④ リスクに応じたう蝕予防方法について概説できる。
- ⑤ う蝕発病の第一次予防、第二次予防および第三次予防について説明できる。
- ⑥ 発病要因に対する予防法を列挙できる。

5) フッ化物によるう蝕予防

- ① 人間生態系におけるフッ化物の意義を説明できる。
- ② 生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。
- ③ フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を説明できる。
- ④ フッ化物応用によるう蝕予防法を列挙できる。
- ⑤ フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。
- ⑥ ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。

6) 歯周疾患の予防

- ① 歯周疾患の炎症の広がりと症状を説明できる。
- ② 歯周疾患の種類と原因を説明できる。
- ③ 歯周疾患のリスクファクターを列挙できる。
- ④ 歯周疾患の全身に与える影響を説明できる。
- ⑤ 歯周疾患の予防法を列挙できる。
- ⑥ 歯周疾患の予防と治療における処置を説明できる。
- ⑦ 定期的予防処置の必要性を説明できる。

7) その他の疾患・異常の予防

- ① 口内炎の分類、要因および予防について説明できる。
- ② 口腔癌の実態と予防について説明できる。
- ③ 不正咬合を起こす要因を列挙し、予防可能な要因について説明できる。
- ④ 頸関節症の症型分類と症状について説明できる。
- ⑤ 歯の形成不全の要因を列挙できる。
- ⑥ 口臭を起こす要因を列挙し、予防について説明できる。
- ⑦ 口腔乾燥症の要因と予防について説明できる。

3. 健康に関わる地域の役割（保健生態学：地域保健学、公衆衛生学）

一般目標：生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基

本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養うために、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。

到達目標

1) 地域保健・公衆衛生総論

- ① 地域保健を担う組織の仕組みと特徴を概説できる。
- ② ヘルスプロモーションやノーマライゼーションなどの地域保健の新たな概念を概説できる。
- ③ 「健康日本 21（第二次）」を概説できる。
- ④ 地域保健の基本的な進め方を概説できる。
- ⑤ 地域歯科保健に関する保健福祉関係施策の変革について概説できる。
- ⑥ ライフステージごとの口腔保健施策を概説できる。
- ⑦ 国民健康・栄養調査を説明できる。

2) 母子保健

- ① わが国の母子保健の概略を説明できる。
- ② 母子健康手帳に記載された、口腔に関係した質問項目を列挙できる。
- ③ 妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。
- ④ 1歳6ヶ月児・3歳児健康診査の目的を説明できる。
- ⑤ 1歳6ヶ月児・3歳児健康診査の結果からう蝕罹患型を正確に分類できる。
- ⑥ う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を列挙できる。
- ⑦ 妊産婦期と乳幼児期の口腔保健管理について説明できる。

3) 学校保健

- ① 学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。
- ② 学校において被患率の高い疾病異常を列挙できる。
- ③ 学校保健関係職員を列挙し、その役割を説明できる。
- ④ 学校保健の保健教育と保健管理を概説できる。
- ⑤ 学校における健康診断を概説できる。
- ⑥ 学校保健委員会の構成と活動を概説できる。
- ⑦ 学校歯科健康診断の検査項目を列挙し、事後措置内容を説明できる。
- ⑧ 学校歯科健康診断の記号を列挙し、基準を説明できる。
- ⑨ 学校歯科健康診断後の C0 と G0 の事後措置を説明できる。

4) 成人保健

- ① 生活習慣病のリスクファクターを列挙できる。
- ② 成人期の口腔保健管理について説明できる。

5) 産業保健

- ① 産業保健の目的を説明できる。
- ② 産業衛生に関する法規を列挙できる。
- ③ 職業性疾病を起こす要因を列挙できる。
- ④ 労働安全衛生法について概説できる。
- ⑤ 作業環境管理、作業管理および健康管理について説明できる。
- ⑥ 職域における健康診断の種類について説明できる。
- ⑦ 口腔領域に関する職業性疾病とそれに対する特殊健康診断について説明できる。
- ⑧ トータルヘルスプロモーションプラン（THP）を説明できる。

6) 老人保健

- ① 高齢者の保健対策を説明できる。
- ② 介護保険制度の概要を説明できる。
- ③ 介護予防サービス（地域支援事業・予防給付）を説明できる。

7) 精神保健

- ① 精神保健の定義を説明できる。
- ② 健康に関わる精神保健の意義を概説できる。
- ③ 精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。

8) 國際保健

- ① 国や地域により健康水準や保健医療の発達程度が異なっていることを概説できる。
- ② 國際協力に関わる機関を列挙できる。
- ③ WHO や JICA の活動を概説できる。
- ④ 世界の歯科疾患の状況と口腔保健従事者について説明できる。

4. 歯科衛生士と法律・制度（医事法制・社会歯科）

一般目標：日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。

1) 医療と社会環境

- ① 日本の医療制度を概説できる。
- ② 国民医療費など、医療経済の動向を説明できる。
- ③ 歯科医療機関の現況を説明できる。
- ④ 歯科衛生士、歯科医師および歯科技工士の業務を説明できる。

2) 患者の権利と医療の責任

- ① 患者の権利を説明できる。

- ② 延命治療と尊厳死について説明できる。
- ③ インフォームド・コンセント、セカンドオピニオン、EBM を説明できる。

3) 歯科衛生士と法律

- ① 歯科衛生士資格の成り立ちと目的を説明できる。
- ② 歯科衛生士業務とその法的根拠を説明できる。
- ③ 歯科衛生士の試験・免許に関する手続きを説明できる。
- ④ 歯科衛生士法に規定されている義務・責務を説明できる。
- ⑤ 歯科医師法と歯科技工士法に規定されている義務と責務を説明できる。
- ⑥ 医療法の成り立ちと目的を説明できる。
- ⑦ 医療法に規定されている遵守事項について説明できる。

4) 医療関係職種

- ① 歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列挙できる。
- ② 保健師助産師看護師法の概要と診療の補助を概説できる。
- ③ 診療放射線技師と言語聴覚士の業務の概略を概説できる。
- ④ 医師法と薬剤師法の概略を概説できる。

5) その他の関係法規

- ① 薬事衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。
- ② 保健衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。
- ③ 予防衛生法規を列挙し、その概要を説明できる。

6) 社会保障と社会福祉

- ① 憲法第 25 条で示す社会保障の種類を列挙できる。
- ② 社会保険の種類とその特徴を説明できる。
- ③ 医療保険の種類とその法律を説明できる。
- ④ 介護保険制度の仕組みを概説できる。
- ⑤ 歯科衛生士に関係する社会福祉を説明できる。

5. 保健情報と衛生統計

一般目標：個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。

到達目標

1) 保健情報と保健統計

- ① データと情報の違いを説明できる。
- ② EBM (evidence-based medicine) を説明できる。

- ③ 国家保健統計を説明できる。
- 2) 保健情報と疫学
- ① 疫学の目的を説明できる。
 - ② 因果関係を説明できる。
 - ③ 調査方法を分類し、説明できる。
 - ④ 研究方法を分類し、説明できる。
 - ⑤ スクリーニング検査を説明できる。
- 3) 歯科疾患の指数
- ① 指標と指数を列挙できる。
 - ② う蝕の指数を説明できる。
 - ③ 歯周疾患の指数を説明できる。
 - ④ 口腔清掃状態の指数を説明できる。
- 4) 保健情報の分析手順
- ① 保健情報の収集方法を説明できる。
 - ② 保健調査の基本を説明できる。
 - ③ 質問紙作成法の基本を説明できる。
 - ④ 母集団と標本を説明できる。
 - ⑤ 標本抽出法を説明できる。
- 5) 保健統計の方法
- ① データの数値のもつ特徴を説明できる。
 - ② 数値に応じた代表値や散布度を選択できる。
 - ③ 数値の特徴や分布に応じた検定法を選択できる。
 - ④ 交絡因子が結果に大きな影響を与えることを知り、その影響を避ける分析法を選択できる。
- 6) 保健情報の分析演習
- ① 検定の流れを説明できる。
 - ② t 検定を説明できる。
 - ③ χ^2 検定を説明できる。
 - ④ 図表の種類と特徴を列挙できる。
 - ⑤ 図表作成の基本事項を列挙できる。
 - ⑥ 図表を作成できる。

7) 情報の保護と倫理

- ① 情報の特性を概説できる。
- ② 情報を得る手順を列挙できる。
- ③ 個人情報の扱い（個人情報保護）を説明できる。
- ④ インターネットと情報モラルを概説できる。

専門分野

A. 歯科衛生学総論（歯科衛生士概論）

1. 歯科衛生学総論

一般目標：歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援する者となるために、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。

到達目標

- ① 歯科衛生学を概説できる。
- ② 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。
- ③ 業務実践にあたって、クリティカルシンキング・批判的に思考する意義を説明できる。
- ④ 歯科衛生過程の構成要素を列挙できる。
- ⑤ 歯科衛生過程の構成要素それぞれの意味を説明できる。
- ⑥ 対象者を第一に考えた健康づくりを支援する理由を説明できる。
- ⑦ 業務記録の意義を説明できる。
- ⑧ 歯科衛生の実践は倫理的でなければならない理由を述べることができる。
- ⑨ インフォームド・コンセントにおける患者と保健医療者双方の権利と義務を説明できる。
- ⑩ 歯科衛生業務の実践におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。
- ⑪ 歯科衛生業務を実践するために、判断力と習熟した技術が必要である理由を説明できる。
- ⑫ 保健・医療・福祉分野の専門職の業務を概説できる。
- ⑬ 他職種との連携の意義を説明できる。
- ⑭ チーム医療を概説できる。
- ⑮ 医療安全対策を概説できる。

2. 歯科衛生過程

一般目標：人びとの歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決することの意義を理解する。

到達目標

- ① 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。
- ② 歯科衛生過程を概説できる。
- ③ 歯科衛生アセスメントを説明できる。
- ④ 歯科衛生計画を説明できる。
- ⑤ 歯科衛生診断を説明できる。
- ⑥ 歯科衛生介入を説明できる。
- ⑦ 歯科衛生過程の評価を説明できる。

B. 臨床歯科医学

1. 歯・歯髄組織の疾患と治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。

到達目標

- ① 歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。
- ② 窩洞の名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。
- ③ 修復処置に使用する器材の目的を説明できる。
- ④ 修復法の種類（直接修復・間接修復）と特徴を説明できる。
- ⑤ 歯の切削器械・器具の種類と特徴を説明できる。
- ⑥ 歯の変色の原因と処置法を説明できる。
- ⑦ Minimal Intervention Dentistry (MID) について説明できる。
- ⑧ 象牙質知覚過敏症の原因と処置法を説明できる。
- ⑨ 修復処置後のメインテナンスを説明できる。
- ⑩ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を説明できる。
- ⑪ 歯髄の保存療法を説明できる。
- ⑫ 歯髄の除去療法を説明できる。
- ⑬ 感染根管治療を説明できる。
- ⑭ 外科的歯内療法の種類と適応症を説明できる。

2. 歯周組織の疾患と治療

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。

到達目標

- ① 歯周病の種類と病態を説明できる。
- ② 歯周治療の流れを説明できる。

- ③ 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。
- ④ 歯周治療の術式と適応症を説明できる。
- ⑤ 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。
- ⑥ 歯周外科手術の介助の概要を説明できる。
- ⑦ 歯周治療後の再評価ができる。
- ⑧ 歯周治療後のメインテナンスを説明できる。

3. 咀嚼障害・咬合異常

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。

到達目標

- ① 歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。
- ② 補綴装置の種類と適応を説明できる。
- ③ 支台装置とポンティックの選択、特徴および製作法を概説できる。
- ④ 可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。
- ⑤ 補綴治療に用いられる器材について説明できる。
- ⑥ 補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる。
- ⑦ 義歯製作のための咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。
- ⑧ 咬合採得する下顎位と咬合採得法を概説できる。
- ⑨ 義歯の調整、リライニング、リベースおよび修理を概説できる。
- ⑩ 補綴処置後におけるメインテナンスの重要性を説明できる。

4. 顎・口腔領域の疾患と治療（口腔外科）

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病態、診断法および治療法を理解する。

到達目標

- ① 口腔・顎顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。
- ② 先天異常（口唇・口蓋裂など）と発育異常（顎変形症など）の病態と治療法を概説できる。
- ③ 歯の外傷、歯槽骨骨折および顎骨骨折の病態と治療法を概説できる。
- ④ 各種口腔粘膜疾患の特徴と治療法を概説できる。
- ⑤ 歯槽部、顎骨および周囲組織の炎症の感染経路と病態および治療法を概説できる。
- ⑥ 顎骨および口腔軟組織に発生する囊胞の特徴と治療法を概説できる。
- ⑦ 口腔・顎顔面領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と特徴および治療法を概説できる。
- ⑧ 顎関節疾患（脱臼、顎関節症、顎関節強直症など）の病態と治療法を概説できる。

- ⑨ 唾液腺疾患（炎症、唾石症、唾液腺腫瘍）の特徴と治療法を概説できる。
- ⑩ 口腔・顎顔面領域の神経疾患（三叉神経痛、顔面神経麻痺など）の特徴を概説できる。
- ⑪ 口腔に症状を現す血液疾患（貧血、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病など）の特徴を概説できる。
- ⑫ 抜歯・口腔外科小手術の手順を説明できる。
- ⑬ 抜歯の適応と禁忌を概説できる。
- ⑭ 抜歯・口腔外科小手術後の注意を説明できる。

5. 歯科麻酔

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な全身管理、精神鎮静法、局所麻酔および全身麻酔を理解する。

到達目標

- ① 麻酔の目的について説明できる。
- ② バイタルサインを説明できる。
- ③ 局所麻酔法と施術時の注意点を説明できる。
- ④ 歯科麻酔時の偶発症とその対策を説明できる。
- ⑤ 精神鎮静法の適応症と種類を説明できる。
- ⑥ 全身麻酔の適応症と種類を説明できる。

6. 小児の理解と歯科治療（小児歯科）

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。

到達目標

- ① 顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。
- ② 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。
- ③ 各年齢における小児の正常な成長発達に関する事項を説明できる。
- ④ 小児の口腔粘膜疾患を説明できる。
- ⑤ 齒列および咬合の発育と発育障害を説明できる。
- ⑥ 乳歯と幼若永久歯の形態的特徴ならびにう蝕の特徴を説明できる。
- ⑦ 小児のう蝕予防と進行抑制法を説明できる。
- ⑧ 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。
- ⑨ 小児の口腔外科的疾患を説明できる。
- ⑩ 小児の歯の外傷についてその種類と処置法を説明できる。
- ⑪ 咬合誘導の概念ならびに保険装置の種類、適応症および留意点を説明できる。

7. 不正咬合と治療（矯正歯科）

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の診断および治療法を理解する。

到達目標

- ① 歯、歯列、咬合の役割と全身との関係を説明できる。
- ② 年齢に応じた正常咬合（乳歯列から永久歯列）を説明できる。
- ③ 不正咬合の種類を列挙できる。
- ④ 不正咬合の原因と障害を把握し、矯正治療の目的を説明できる。
- ⑤ 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。
- ⑥ 不正咬合の治療に適した装置を識別し、その構造、機能を説明できる。
- ⑦ 矯正治療に用いる器具・器材とその取り扱いについて説明できる。
- ⑧ 矯正治療時の口腔内状況を評価し、適切な口腔内管理方法を説明できる。

8. 高齢者の理解と歯科治療（高齢者歯科）

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

到達目標

- ① 老化と口腔の加齢変化について説明できる。
- ② 高齢者の全体像を説明できる。
- ③ 要介護高齢者の身体疾患と口腔疾患について説明できる。
- ④ 高齢者歯科における医療安全について説明できる。
- ⑤ 器質的・機能的口腔ケアについて説明できる。
- ⑥ 歯科訪問診療を説明できる。
- ⑦ 高齢者の摂食・嚥下機能と障害について説明できる。
- ⑧ 高齢者の摂食・嚥下リハビリテーションについて説明できる。

9. 障害者（児）の理解と歯科治療（障害者歯科）

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な障害者（児）の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。

到達目標

- ① 障害者（児）の概要を述べることができる。
- ② 障害者（児）の全身的特徴と歯科的特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を述べることができる。
- ③ 障害者（児）の歯科治療について説明できる。
- ④ 障害者（児）歯科における医療安全について説明できる。
- ⑤ 障害者（児）の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。

10. 画像検査（歯科放射線科）

一般目標：歯科衛生業務を行うために必要な画像検査の特徴と適応ならびに放射線防護を理解する。

到達目標

- ① 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。
- ② エックス線画像の形成原理を概説できる。
- ③ 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。
- ④ 口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。
- ⑤ 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。
- ⑥ 基本的な病変のエックス線所見を概説できる。
- ⑦ 超音波装置、エックス線 CT および磁気共鳴撮影装置を用いた検査法の原理と基本的特徴を概説できる。

11. 全身管理と周術期の口腔保健管理

一般目標：がん手術、心臓・循環器手術や臓器移植等の手術患者において、口腔衛生状態の改善と口腔機能の管理が術後感染や肺炎等の合併症予防に有効であることを理解する。

到達目標

- ① がん手術前後の口腔保健管理による手術時のトラブル防止、誤嚥性肺炎や局所感染の予防方法を説明できる。
- ② がんの放射線療法・化学療法による口腔粘膜炎や口腔内感染症の予防とそれに対する口腔保健管理を説明できる。

C. 歯科予防処置論（＊実習が望ましい項目）

一般目標：口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。

1. 総論

一般目標：歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。

到達目標

1) 概 要

- ① 歯科予防処置の概念と内容を説明できる。
- ② 歯科予防処置の法的位置づけについて説明できる。

③ 予防処置の対象者を把握する方法を説明できる。

2) 基礎知識

- ① 正常な歯・歯周組織と口腔の機能について説明できる。
- ② 歯・口腔の健康状態を把握するための項目が列挙できる。
- ③ プラークの形成過程と成分について説明できる。
- ④ 歯石の形成過程と成分について説明できる。
- ⑤ う蝕の原因と進行、予防方法について説明できる。
- ⑥ 歯周病の原因と分類、進行および予防方法について説明できる。
- ⑦ 歯科予防処置時に起こりうる不快事項とその予防方法について説明できる。
- ⑧ 不快事項に対する適切な対応方法を説明できる。

2. 歯周病予防処置

一般目標：歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。

到達目標

1) 歯周病の基礎知識

- ① 歯周病予防に関する生活習慣の把握方法と項目を説明できる。
- ② 歯周病と全身疾患との関連について説明できる。
- ③ 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。

2) 歯・歯周組織の検査

- ① プローブの種類と操作方法を説明できる。
- *② 歯・歯肉・口腔の検査ができる。
- ③ 診査の結果を説明できる。

3) スケーリング・ルートプレーニング

- ① スケーラーの種類と使用目的を説明できる。
- *② シックルタイプスケーラーを操作できる。
- *③ キュレットタイプスケーラーを操作できる。
- *④ 超音波スケーラーを操作できる。
- *⑤ エアースケーラーを操作できる。
- *⑥ シャープニングができる。

4) 歯面清掃・歯面研磨

- ① 歯面清掃・歯面研磨の意義が説明できる。
- *② 歯面清掃ができる。

*③ 歯面研磨ができる。

5) SPT（歯周病定期治療）

- ① SPT の目的を説明できる。
- ② SPT の処置内容を説明できる。
- ③ SPT 実施時の注意点を説明できる

6) メインテナンス

- ① 歯周病におけるメインテナンスの目的を説明できる。
- ② メインテナンス時の評価項目と方法、処置について説明できる。
- ③ 歯周病のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる。

3. う蝕予防処置

一般目標：う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① う蝕予防処置に関する生活習慣の把握方法と項目を説明する。
- ② う蝕と全身疾患の関連について説明する。
- ③ う蝕予防処置の臨床的効果、作用機序、安全性、および便宜性について説明できる。
- ④ う蝕予防処置法の選択方法を説明できる。
- ⑤ う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。

2) う蝕活動性試験

- ① う蝕活動性試験の条件を説明できる。
- ② う蝕活動性試験の検体と評価項目を説明できる。
- *③ う蝕活動性試験を実施できる。
- ④ う蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる。

3) フッ化物歯面塗布法

- ① 使用薬剤の種類と濃度、およびその取り扱い方法を説明できる。
- ② フッ化物歯面塗布の適応歯を説明できる。
- ③ フッ化物歯面塗布の術式を説明できる。
- *④ フッ化物歯面塗布を実施できる。
- ⑤ フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。

4) フッ化物洗口法

- ① 使用薬剤の種類、濃度および取り扱い方法を説明できる。
- ② 対象年齢と洗口方法を説明できる。
- ③ フッ化物洗口法実施上の注意点を説明できる。

5) フッ化物配合歯磨剤

- ① 配合フッ化物の種類と特徴を説明する。
- ② 年齢に応じた使用量を説明できる。
- ③ フッ化物配合歯磨剤の使用方法を説明できる。

6) 小窓裂溝填塞法

- ① 小窓裂溝填塞材の種類と特徴を説明できる。
- ② 小窓裂溝填塞の適応歯を説明できる。
- ③ 小窓裂溝填塞の術式を説明できる。
- *④ 小窓裂溝填塞を実施できる。
- ⑤ 小窓裂溝填塞実施上の注意点を説明できる。

7) メインテナンス

- ① う蝕予防処置におけるメインテナンスの目的を説明できる。
- ② メインテナンス時の評価項目と方法、処置について説明できる。
- ③ う蝕のリスクとメインテナンスの必要性を説明できる。

D. 歯科保健指導論（＊実習が望ましい項目）

一般目標：健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。

1. 総論

一般目標：歯科保健指導についての専門知識、技術および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要を学ぶ。

到達目標

1) 概要

- ① 歯科保健指導の概要を説明できる。
- ② 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。
- ③ プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションおよびノーマライゼーションを説明できる。

2) 生活行動

- ① 保健行動を概説できる。
- ② 行動変容をもたらす要因を説明できる。

2. 歯科保健指導の基礎

一般目標：歯科保健指導を行うために、対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程を習得する。

到達目標

1) 対象把握

- ① 対象者の生活習慣と生活環境を把握できる。
- ② 対象者の日常生活自立度（ADL）について把握できる。

2) 全身状態の把握

- ① 全身的な健康状態を把握できる。

3) 歯・口腔状態の把握

- *① 歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる。
- *② 口腔清掃状態の指標を基に検査できる。
- *③ 口腔機能のスクリーニングテストができる。

4) 医療面接

- ① 間診票について説明できる。
- *② 対象者に応じたコミュニケーションがとれる。

3. 口腔清掃指導

一般目標：口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 歯・口腔の清掃に関する清掃用具の特徴と操作方法について説明できる。
- ② 歯磨剤と洗口剤の特徴について説明できる。

2) 指導の要点

- ① 口腔清掃状態の評価ができる。
- ② 口腔清掃自立度の評価ができる。
- *③ 口腔清掃の指導ができる。
- *④ ブラッシング方法の選択と指導ができる。

- *⑤ 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。
- *⑥ 歯磨剤・洗口剤の選択と使用法の指導ができる。

3) リスクに応じた指導法

- *① う蝕のリスクに応じた口腔清掃法の指導ができる。
- *② 歯周病のリスクに応じた口腔清掃法の指導ができる。
- *③ 口臭に関する指導ができる。
- *④ 口腔乾燥に関する指導ができる。
- *⑤ 義歯と矯正装置の装着者に応じた清掃方法と管理指導ができる。

4) 対象別の指導法

- ① 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
- *② 各ライフステージ別の口腔清掃の指導ができる。
- *③ 特別配慮を要する妊産婦・全身疾患患者・障害者（児）・要介護者・介護者に対する口腔清掃の指導ができる。

4. 生活指導

一般目標：ライフステージと機能障害に応じた生活指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 各ライフステージ別の生活習慣の把握ができる。
- ② 各ライフステージ別の食生活の把握ができる。
- *③ 各ライフステージ別の生活指導ができる。
- ④ 食生活の関連する栄養素、栄養食品および食事摂取基準を説明できる。
- ⑤ 栄養と口腔保健の関連について説明できる。
- ⑥ 摂食・嚥下状態を把握できる。
- ⑦ 他職種との連携について説明できる。

2) 食生活指導

- *① 各ライフステージ別の食生活指導ができる。
- ② 食育基本法と食生活指針を説明できる。
- ③ 食事バランスガイドとフードガイドを説明できる。
- ④ BMIについて説明できる。
- *⑤ 生活習慣病に応じた食生活指導ができる。
- *⑥ 障害者（児）、要介護者の食事介助の指導ができる。
- ⑦ 摂食・嚥下機能に応じた食事形態の説明ができる。

3) 口腔機能の維持・向上

- *① 口腔機能の現状を把握するためのアセスメントができる。
- *② 口腔機能訓練ができる。
- *③ 専門的口腔ケアができる。

4) 生活習慣

- *① 禁煙指導と支援ができる。

5. 歯科衛生教育活動

一般目標：歯科衛生教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 基礎知識

- ① 対象に応じた教育活動を説明できる。
- ② 歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割を説明できる。
- ③ 歯科衛生教育活動の関係法規を説明できる。
- ④ 歯科衛生教育活動をする場の説明ができる。

2) 保健所、市町村保健センター

- ① 地域の実態の把握ができる。
- ② 対象者の特性とニーズの把握ができる。
- ③ 地域歯科保健事業における歯科衛生士の役割を説明できる。
- ④ 地域歯科保健事業における歯科衛生教育ができる。

3) 保育所、幼稚園

- ① 保育所、幼稚園に入所する乳幼児の口腔保健の実態が把握できる。
- *② 保育所、幼稚園に入所する乳幼児を対象とした歯科衛生教育ができる。
- *③ 保育所、幼稚園の保育士、教員および保護者を対象とした歯科衛生教育ができる。

4) 学校

- ① 小学校、中学校、高校（児童・生徒）の口腔保健の実態が把握できる。
- *② 小学校、中学校、高校（児童・生徒）を対象とした歯科衛生教育ができる。
- *③ 小学校、中学校、高校（児童・生徒）の教員および保護者を対象とした歯科衛生教育ができる。

5) 事業所

- ① 事業所の口腔保健の実態が把握できる。

*② 事業所の従業者・衛生管理者を対象とした歯科衛生教育ができる。

6) 在宅（居宅）、介護・社会福祉施設

- ① 要介護者の居住環境の把握ができる。
- *② 要介護者を対象とした歯科保健指導ができる。
- *③ 要介護者の家族・介護者・施設職員の歯科保健指導ができる。
- *④ 要介護者に対するケアのための感染予防対策ができる。

E. 歯科診療補助論（＊実習が望ましい項目）

一般目標：さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する。

1. 歯科診療補助

一般目標：専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。

到達目標

1) 概要

- ① 歯科診療の補助と歯科診療の介助の違いを述べることができる。
- ② 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる。
- ③ チーム歯科医療の必要性を述べることができる。
- ④ 歯科訪問診療のための保健・医療・福祉のシステムを概説できる。

2) 患者への対応

- ① 患者の状態に応じた対応ができる。
- ② 全身疾患を考慮した対応ができる（身体機能含む）。

3) 診療設備

- ① 診療設備が整えられる。
- ② 歯科用ユニットの管理ができる。
- ③ エックス線撮影装置の管理ができる。

4) 医療安全管理

- ① 感染に応じた対応ができる。
- *② スタンダードプレコーションができる。
- ③ 医療廃棄物の取り扱いができる。
- ④ 偶発事故に適切な対応ができる。

5) 診療時の共同動作

- *① フォーハンドシステムの基本動作ができる。
- *② 診療に応じた器具の受け渡しができる。
- *③ 診療に応じたバキューム操作ができる。

6) 消毒・滅菌

- ① 消毒薬、各種滅菌器械・器具の準備ができる。
- *② 消毒薬、各種滅菌器械・器具の取り扱いができる。
- ③ 消毒薬、各種滅菌器械・器具の管理ができる。

2. 主要歯科材料の種類、取扱いと管理

一般目標：歯科診療の補助に対応するために、歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法を習得する。

到達目標

1) 模型用材料

- ① 模型用材料の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 模型用材料の取り扱いができる。

2) 合着・接着材

- ① 合着・接着材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 各種合着・接着材を練和できる。

3) 印象材

- ① 印象材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 各種印象材を練和できる。
- *③ 概形印象の採得ができる。

4) 歯冠修復材

- ① 歯冠修復材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 歯冠修復材の取り扱いができる。

5) 仮封材

- ① 仮封材の種類と基本的性質を説明できる。
- *② 仮封材の取り扱いができる。

6) その他の材料

- ① ワックスの基本的性質を述べることができる。

3. 保存治療時の診療補助

一般目標：保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 前準備

- ① 防湿法に用いる器具や材料の名称と用途を説明できる。
- *② ラバーダム防湿ができる。
- *③ 隔壁法に用いる器具の操作ができる。
- *④ 歯肉排除法に用いる器材の操作ができる。
- *⑤ 歯間分離法に用いる器具の操作ができる。

2) 窩洞形成

- ① 切削用器械、器具の準備ができる。

3) 成形修復

- ① コンポジットレジン修復の手順を説明できる。
- ② 歯面処理材料の準備ができる。
- ③ コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。
- ④ グラスアイオノマーセメント修復の手順を説明できる。
- ⑤ グラスアイオノマーセメント修復の器材や材料の準備ができる。

4) インレー修復

- ① インレー修復の手順を説明できる。
- ② インレー修復の準備ができる。
- *③ 合着後の余剰セメントの除去ができる。

5) 漂白法（ホワイトニング・ブリーチング）

- ① 漂白法の種類を説明できる。
- ② 漂白法の手順を説明できる。
- ③ 漂白法の器材・薬剤の準備ができる。

6) 歯髓処置

- ① 歯髓処置の手順を説明できる。
- ② 歯髓処置の薬剤や器材の準備ができる。
- ③ 電気歯髓診断器の準備ができる。

7) 根管処置

- ① 根管処置の薬剤や器材の準備ができる。
- ② 根管長測定器の準備ができる。
- ③ 根管充填の薬剤や器材の準備ができる。

8) 歯周外科治療

- ① 歯周外科治療の手順を説明できる。
- ② 歯周外科治療の薬剤や器具の準備ができる。
- *③ 歯周用パックの取り扱いができる。

4. 補綴治療時の診療補助

一般目標：補綴治療の補助のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 検査

- ① 各種検査の手順を説明できる。
- ② 各種検査で用いる器材の準備ができる。

2) 印象採得

- ① 印象採得の手順を説明できる。
- ② 印象採得で用いる器材の準備ができる。

3) 咬合採得

- ① 咬合採得の手順を説明できる。
- ② 咬合採得で用いる器材の準備ができる。

4) 補綴装置の合着・装着

- ① 床義歯装着時に用いる器材の準備ができる。
- ② クラウン・ブリッジ合着時に用いる器材の準備ができる。
- ③ 義歯装着後の指導ができる。
- ④ インプラント装着後の指導ができる。

5. 口腔外科治療時の診療補助

一般目標：口腔外科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 抜歯

- ① 抜歯の手順を説明できる。
- ② 抜歯に用いる器材の準備ができる。

2) 小手術

- ① 各種小手術の手順を説明できる。
- ② 各種小手術に用いる器材の準備ができる。
- ③ 縫合に用いる器材の準備ができる。

3) 止血処置

- ① 止血法を説明できる。

6. 歯科麻酔時の診療補助

一般目標：歯科麻酔の補助のために必要な手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 局所麻酔

- ① 局所麻酔時に用いる薬剤や器材の準備ができる。

2) 鎮静と全身麻酔

- ① 精神鎮静法の手順を説明できる。
- ② 精神鎮静法に用いる薬剤や器材の準備ができる。
- ③ 全身麻酔の手順を説明できる。
- ④ 全身麻酔に用いる薬剤や器材の準備ができる。

7. 矯正治療の診療補助

一般目標：矯正治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 器具・器材

- ① 矯正治療に必要な器材の準備ができる。

2) 検査記録

- ① 口腔内・顔面写真の撮影手順を説明できる。
- ② 頭部エックス線規格写真のトレース法を説明できる。
- ③ 矯正用口腔模型の作製法を説明できる。

3) 装置の装着

- *① 歯面清掃ができる。
- ② 接着材の準備ができる。
- ③ 帯環(バンド)の準備ができる。
- ④ ワイヤーの準備ができる。
- ⑤ ブラケットの準備ができる。
- ⑥ 結紮の方法を説明できる。
- ⑦ 矯正装置装着後の指導ができる。

4) 装置の撤去

- ① 撤去に必要な器材の準備ができる。

8. 小児歯科治療時の診療補助

一般目標：小児歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 小児患者の対応

- *① 治療時的小児への対応ができる。
- *② 治療時の障害児への対応ができる。

2) 小児歯科治療

- ① 治療の手順を説明できる。
- ② 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。
- *③ ラバーダム防湿ができる。

9. 高齢者歯科治療時の診療補助

一般目標：高齢者歯科治療の補助のために必要な患者対応および治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 高齢患者の対応

- *① 治療時の高齢者への対応ができる。

2) 高齢者歯科治療

- ① 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。

10. 障害者歯科治療時の診療補助

一般目標：障害者歯科治療の補助のために必要な患者対応、摂食・嚥下の検査および訓練法を習得する。

到達目標

1) 障害患者の対応

- ① 治療前の導入法を説明できる。
- ② 治療時の患者コントロール法を説明できる。
- ③ 治療に必要な薬剤や器材の準備ができる。

2) 摂食・嚥下リハビリテーション

- ① 検査の準備ができる。
- *② スクリーニングテストができる。
- *③ 間接訓練ができる。
- *④ 直接訓練ができる。

11. エックス線写真撮影時の診療補助

一般目標：エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。

到達目標

1) 撮影の準備

- ① 各種エックス線写真撮影機器の取り扱いを説明できる。

2) エックス線撮影

- ① 口内法エックス線撮影の手順を説明できる。
- ② 口内法撮影のフィルムの位置づけと固定ができる。
- ③ パノラマエックス線撮影の準備ができる。
- ④ フィルムの取り扱いや保管ができる。

3) 放射線防護

- ① 放射線防護の準備ができる。
- ② 患者や術者の放射線防護ができる。

12. 臨床検査法

一般目標：臨床検査のために必要な器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 検査の準備

- ① 生体検査の準備ができる。
- ② 検体検査の準備ができる。
- ③ 口腔領域の検査の準備ができる。

13. 救命救急処置

一般目標：救命救急処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。

到達目標

1) 全身管理

- *① バイタルサインの測定ができる。

2) 救命救急処置

- ① 一次救命処置の手順を説明できる。
- ② 一次救命処置に用いる器材の準備ができる。
- ③ 二次救命処置の手順を説明できる。
- ④ 二次救命処置に用いる器材の準備ができる。
- *⑤ AED の取り扱いができる。
- ⑥ 歯科診療における不快事項に対応できる。

F. 臨地実習（＊実習が望ましい項目）

1. 臨床実習

一般目標：歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。

到達目標

1) 対人関係

- ① 歯科医師からの指示内容を踏まえた対応ができる。
- ② スタッフ（他職種を含む）と協働し、連携のとれた対象へのサービスができる。
- ③ プライバシーを配慮した態度で応接できる。
- ④ 対象者の守秘義務を遵守できる。

2) 診療室の管理

- ① 診療室のルールを理解した行動ができる。
- ② 医療安全管理に配慮した行動ができる。
- ③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる。

- ④ 器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。
- ⑤ 患者のデータ資料の管理方法を理解した行動ができる。

3) 歯科衛生業務

- *① 患者からの要求や相談内容を判断し、患者に応じた応対ができる。
- *② 歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。
- *③ 歯科衛生に必要なスクリーニングと検査ができる。
- *④ 歯科衛生のサービスを行うにあたって、その必要性を科学的に説明できる。
- *⑤ 資料やデータから歯科衛生業務の内容を判断し、内容に応じた行動ができる。
- *⑥ 対象者に応じた保健管理指導ができる。
- *⑦ スタッフ（多職種を含む）と連携して共同動作、必要なサービスができる。
- *⑧ 業務記録の記述ができる。
- *⑨ カンファレンスの必要性を理解した発言ができる。

2. 臨地実習

一般目標：歯科衛生業務を修得するために、地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。

到達目標

1) 対人関係

- ① 対象者からの要求を理解した対応ができる。
- ② 対象に応じて配慮した対応ができる。
- ③ 対象のプライバシーを配慮した態度で応接できる。
- ④ 対象者の守秘義務を遵守できる。
- ⑤ スタッフ（多職種）との協働、連携した対象者へのサービスができる。

2) 施設等の管理（運営）

- *① 施設等のルールを理解した行動ができる。
- *② 安全管理に配慮した行動ができる。
- *③ 感染予防（消毒・滅菌、手指消毒等）対策に応じた行動ができる。
- *④ 器材、機器および薬品の管理の方法を理解して行動できる。
- *⑤ 対象者のデータ資料の管理の方法を理解した行動ができる。

3) 歯科衛生の実践

- *① 対象者の要求や相談内容を判断し、内容に応じた応対ができる。
- *② 指導者からの指示内容を理解した行動ができる。
- *③ スタッフ（多職種）と連携して必要なサービスができる。
- *④ 対象者に応じた保健管理指導ができる。

- *⑤ 集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる。
- *⑥ 現場に応じた業務記録の記述ができる。
- *⑦ カンファレンスの必要性を理解した発言ができる。

臨地実習の実施計画について

- (1) 臨地実習については、1単位を45時間の実習をもって構成することとし、実習時間の3分の2以上は病院、診療所、歯科診療所において行うこと。
(総実習時間数：20単位、900時間)
- (2) 実習時間の目安としては、病院、診療所、歯科診療所（臨床）等660～765時間（1日を6時間）、高齢施設や集団指導等135～200時間（1日を6時間）とする。
- (3) 臨地実習は、実践活動の場において行う実習のみを指すものであること。
- (4) 臨地実習は原則として昼間に行うこと。
- (5) 臨地実習は、地域の特性を考慮した実習計画を作成すること。また、ライフステージを配慮した計画にすること。
- (6) 早期（1年次）に、臨地実習現場の見学実習（体験実習）を組むことが望ましい。
- (7) 臨地実習は、実習施設の実情を踏まえて計画すること。

ライフステージ別の臨地実習について（参照）

ライフステージ	実習施設	実習内容
胎児期（妊娠）	市町村センター、保健所、病院	妊婦歯科検診、両親学級等での健康教育、健康相談、歯科保健教育
乳・幼児期	市町村センター、保健所、保育所、幼稚園、認定こども園	乳児健康診査、育児相談、1歳6ヵ月児健康診査、3歳児健康診査など、 健康後の健康教育、健康相談、保育所、幼稚園での歯科保健教育、保育体験
学齢期	小学校	健康診断（歯科健診）、歯科保健教育
青年期	中学校、高等学校	健康診断（歯科健診）、歯科保健教育
成人期	市町村 事業所（企業）	特定健康診査、特定保健指導、一般健康診査（歯周疾患健診）など 健診後の健康教育、健康相談、事業所での健康診査 歯科保健教育（口腔の健康管理）
老年期	市町村、通所介護のサービスセンター、老人保健・福祉施設など 在宅訪問	特定高齢者健康診査、健康教育、健康相談、地域支援事業（口腔機能の向上） 施設等での歯科健康診査、食事の介助、口腔清掃（口腔の健康管理） 在宅訪問（歯科保健指導、歯科診療）など

*上記の記載事項については努力目標として、診療参加型実習ができるように考慮する。

障害者への支援と周術期の支援

	実習施設	実習内容
障害者への支援	特別支援学校、口腔保健センター、障害者福祉施設（身体・認知・精神障害等）など	特別支援学校での歯科保健指導 障害者への歯科診療、健康教育、口腔の健康管理
周術期の支援	病院、連携する歯科医療機関（在宅訪問、介護施設）	術前、術中、術後の口腔機能管理、専門的口腔ケア、感染予防対策、食事指導など 周術期の患者への歯科診療、健康教育、口腔の健康管理 (放射線治療や化学療法を受ける患者への歯科衛生介入)

*上記の記載事項については、できるだけ見学・実習ができるように考慮する。

歯科衛生学教育コア・カリキュラム（改訂版）小委員会委員と担当分野

2013年4月～2015年3月

		委員長 松田裕子（鶴見大学短期大学部）
担当分野		分担者（所属）
前文		眞木吉信（東京歯科大学） (柴谷貴子 関西女子短期大学)
基礎分野	A. 科学的思考の基盤 B. 人間と生活	池田利恵（日本歯科大学東京短期大学）
専門基礎分野	A. 人体の構造と機能 B. 歯・口腔の構造と機能 C. 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進 D. 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	池田利恵（日本歯科大学東京短期大学） 眞木吉信（東京歯科大学） (山根 瞳 アポロ歯科衛生士専門学校)
専門分野	歯科衛生学総論 (歯科衛生士概論)	遠藤圭子（東京医科歯科大学） (藤原愛子 九州看護福祉大学)
	臨床歯科医学	福島正義（新潟大学大学院） 升井一朗（福岡医療短期大学） *近藤健示（日本医歯薬専門学校） (松井恭平 千葉県立保健医療大学)
	歯科予防処置論	白鳥たかみ（東京歯科大学歯科衛生士専門学校）
	歯科保健指導論	高阪利美（愛知学院大学短期大学部）
	歯科診療補助論	合場千佳子（日本歯科大学東京短期大学） (山田小枝子 朝日大学歯科衛生士専門学校)
臨地実習	臨地・臨床実習	松田裕子（鶴見大学短期大学部） *畠中能子（関西女子短期大学） (田村清美 名古屋歯科医師会附属歯科衛生士専門学校)

() 内は、作成時の元コア・カリキュラム委員会メンバー

*はコア・カリキュラム新委員会メンバー